

平成 29 年度 第 2 回 尼崎市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成 30 年 3 月 26 日（月）午後 2 時～3 時 30 分

【場 所】 尼崎市役所 北館 4 階 4-1 会議室

【出席者】 尼崎市総合教育会議構成員

稲村 和美	市長／座長
徳田 耕造	教育長
濱田 英世	教育委員
仲島 正教	教育委員
礪田 雅司	教育委員
徳山 育弘	教育委員

関係者（尼崎市総合教育会議設置要綱第 5 条）

森山 敏夫	副市長
中浦 法善	ひと咲きまち咲き担当局長
白畑 優	教育次長
西野 信幸	教育次長
能島 裕介	企画財政局兼教育委員会事務局参与

【事務局】 ひと咲きまち咲き担当局 ひと咲き施策推進部（吉田部長）
ひと咲きまち咲き担当局 尼崎大学・学びと育ち研究担当（立石課長）

【資 料】 ・次第
・資料 1 平成 29 年度の振り返りと来年度事業について

【次 第】 開 会
1 平成 29 年度の振り返りと来年度事業について
2 意見交換
3 その他
閉 会

【議 事】 (敬称略)

稲 村 平成 29 年度末にあたり、1 年間の振り返りと来年度の教育関連の新規事業について、自由にご意見をいただきたいと思ひます。

それでは、時系列に沿って、1 年間の振り返りから始めたいと思ひます。

まず、ひと咲きプラザにあります学びと育ち研究所と、教育総合センターの教職員の学び支援課による融合した取組が今年度からスタートいたしました。データ分析だけでなく、現場の先生方の意見もどんどん取り入れていく形で、運営していきたいと思ひています。

来年度、5 月には、学びと育ち研究所が中心となり、各主席研究員による報告会を開催します。まだ研究が始まったところで、研究成果が出るには期間が短すぎますが、取り組んでいる研究内容について、理解していただけたと思ひています。市職員から教員、市民の皆様まで、幅広い方々に参加いただきたいと思ひます。ひと咲きプラザについては、様々な取組を拡げていく拠点にしたいと思ひて

おり、市長部局と教育委員会との協力体制について、今後改めて、教育委員の皆様にご相談させていただきたいと思っております。

次に、昨年9月、子どもの貧困問題について、社会的な関心が高まっている中で、子どもの生活に関する実態調査を実施いたしました。調査結果については、現在集計中です。またご報告させていただき、教育委員の皆様と意見を交換する時間を取りたいと思っています。

次に、昨年11月に尼崎市いじめ防止基本方針の改正を行いました。これは、国の方針改正を受けての改正になります。例えば、「お金を出せ」という行為は、いじめかというような事例が全国で生じており、具体的な項目が言及されました。国の方針として、いじめの解消という概念が明確に打ち出されたことが、新しいポイントになります。尼崎市の方針としては、情報を入手し、どう対応していくかを考え、現場と情報を共有するという点で、以前と変更ありません。

森 山 対応についてのフロー図を付けるなど、分かりやすくといった教育委員会のご意見を反映する形で作成しました。

徳 山 現場の先生と共有できているのか、今後注目していきたいと思っております。

稲 村 学校でもいじめ対策の方針を作っているとは思いますが、毎日それを手にするものでもないと思っております。市の方針と学校の方針とを現場の先生方と共有していくには、校・園長会を通じて周知をしていくのがよいかと思っています。

徳 田 市と学校で、いじめ対策の方針が大きくずれていることはないと思っております。いずれも見ながら、抜けがないかということをチェックしていけばよいかと思っております。

徳 山 いじめを発見したら、すぐに対策会議を開き、いじめの見守りを行う。いじめが解消されたかどうか3か月間見守るのが基本的な内容になっています。しかし、情報が学校現場からあがってこない場合、尼崎市の不備として、裁判等になることが考えられます。

稲 村 軽微なケースも含めて、いじめの報告はあがってきています。減ってはきていますが、あがってきていないだけで、本当に減ったかどうかを見ていく必要があります。重篤なケースより軽微なケースが多いように見受けられます。

次に、今年度の1月、中学校給食に向けて、基本計画を成案化しました。検討会へは、メリット・デメリットを比較検証する中で、今後の方向性を見出させていただきたいとお願ひし、最終的に、衛生管理上の安心・安全の確保をすること、中学校の給食化に伴いグラウンドが狭くなることや工期がかかることといった教育活動への影響が少ないこと、全校一斉にスタートができること、財政的にも負担が少ないことなどの意見を総合的な観点で判断し、給食センター方式で進めることで、成案化させていただきました。

平成34年度のスタートを目指しており、卸売市場の敷地を整理し、一部を給食センターとして使用できるように調整を進めています。市場関係者の皆様とのスケジュール等を合わせ、スムーズに合意を図っていくことが最大のポイントであると思っています。

また、前回の総合教育会議でも確認しましたが、中学校給食はランニングコストがかなりかかります。これは従来の教育費から捻出するのではなく、別枠で財政運営をするということで、引き続き頑張っております。

次に、自治のまちづくりに向けた、地域振興体制の再構築の取組方針について、まとめさせていただきました。教育委員の皆様と議論を重ね、熱心なご意見をいただき、ありがとうございました。この件について、武庫地区において、試験的な取組として、新たに課長を配置するなど、公民館と地域振興センターが手を取り合って、しっかりと取組を進めていきたいと思っています。また、職員も増員しました。1小学校区に1人の職員が担当するくらいの配置になります。今後、

皆様と経過報告と情報共有する機会を持ちたいと思っています。ただ、条例化については、6月に上程の予定で準備を進めていきたいと思っています。今後ともお力添えをお願いいたします。

1年間の振り返りをさせていただきましたが、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

森 山 追加になりますが、教育環境の充実ということで、学校空調の予算化について、国の補正予算が確保できましたので、再来年には全ての学校で空調が整った状態になります。

稲 村 これまで未設置校を優先的に予算計上してきましたが、既に設置している学校でも空調設備が老朽化し、エアコンの効きが悪くなっているところがあると、議会からご指摘いただいていたものです。

森 山 空調の整備については、1校あたり約1億円程度かかります。

稲 村 既に空調を設置されていた学校に新たな空調を入れなおした場合、未設置校に空調を設置するよりも、金額が高くなります。これは、古くなった空調の撤去費用がかかるためです。

磯 田 確かにコストがかかります。

稲 村 空調整備は、この夏に全ての学校で稼働できますか。

徳 田 平成30年度は、間に合いません。

森 山 更新は、平成31年度の予定です。

稲 村 空調の設置・更新に伴い、学力向上にもつなげていきたいと思っています。行事と学力向上を両立させる為に、時間数を確保しているわけですから、今年度は、試行錯誤してやってみて、また考えていきたいと思っています。

磯 田 空調が全て稼働した場合、どのくらいの光熱費がかかりますか。

森 山 空調は、ガス空調になります。冬場は、ガス空調の方が効率が良いようです。電気代は下がると思いますが、ガス空調なので、光熱費はそれほど下がらないと聞いています。

磯 田 光熱費は、学校予算からの支払いになりますか。

稲 村 学校予算になります。

次に、あまっ子ステップ・アップ調査事業についてですが、これは平成30年度の新規事業で、尼崎市独自で行います。毎年どの学年の子どもにも試験を受けてもらい、一人の子どもが、どういう変化をたどっているのかを分析するのが狙いです。

かつて尼崎市は、学力テストの結果を全国と比較した時に、平均点がかなり乖離しているというのが大きな課題となっていました。平均点を全国並にというのが一つの目標でしたが、平均点が上がって良かったという話でいいのかどうか、ひっかかるところがありました。

また尼崎市の結果は、上位層と下位層に分かれたフタコブラクダと言われており、中間層が少ないという実態でしたが、それがこの10年間の教育委員会の頑張りにより、全体に押し上げられてきています。成果に結びついたように思います。

一部の子どもたちの力ではなく、子どもたち全体に必要な力が付いてきたことに着目すべきと、教育委員会も市長部局も同じこだわりを持っており、きちんと調べることにしました。データを集め、力が伸びている子どもとそうでない子どもとが、どこで分かれるのか、放課後学習や補習のような取組などが身に付いているのか、他に良い手だてがないかといった社会力や学力育成につながっていく事業にしたいと思っています。

研究所では、中・長期的な視野でデータを蓄積し、どのような手立てが学校現場の先生に役に立つのか、教職員の学び支援課を中心に考えていってほしいと思

っています。どこがどうつながっていくのかということが可視化されて、授業力の向上や学校現場の先生方のサポートになるような事業にしたいと考えています。

森 山 3月の議会でも教育委員会から説明がありました。実施時期を12月か1月に実施することで、進級までの復習に活かしていくことができるということに、あまっ子ステップ・アップ調査事業が活用できるということでした。

稲 村 つまずいて、前に進めない、分からないということが減っていくように思います。

次に、自治のまちづくりに関して、条例に対して皆様から具体的な提案もいただきました。社会教育法の中身をしっかりおさえて、一言一句提案通りの条文にはならないかもしれませんが、主旨がずれることがないように法制部門と調整中です。

森 山 まちづくりと社会教育とを一体的に考えていく必要があります、社会教育がまちづくりにつながっていく。そんな体制を作っていきたいと思います。

磯 田 私たちも理解が深まりました。社会教育の枠を超えて、まさに社会教育に我々地域の間が力を貸すことになります。

稲 村 尼崎市は、地域で教育力を発揮するという、そういうまちでありたいです。今、尼崎では、大学生を対象に長期実践型インターンシップ事業をしているのですが、各企業の経営者の方々は自分の企業に就職するとは限らない子どもたちに対して、真剣に向き合ってください。文部科学省の地（知）の拠点事業という、大学と自治体が連携して、地域課題の解決の為に、学生が地域に出て行き、地域の方々と、ともに取り組むこともしています。杭瀬での取組を聞きましたが、非常に良かったと思います。

濱 田 なかには、なぜ尼崎市の課題解決をしないといけないのかと考えている大学生もいるようで、大学の思いと学生との間にギャップがあるようです。

地域振興体制の見直しについては、情報の伝え方をうまく、工夫をする必要があると思います。

仲 島 尼崎市の地域振興の体制の見直しは非常に良いと、みんなに伝えたいと思っています。同様に尼崎の公立学校も良いとアピールしてもらいたいです。私立中学校に行く子どもたちが多いのが残念です。

稲 村 各小学校で受験率は、ずいぶん違うのですか。

徳 田 市内の10パーセントくらいの子供たちが私立中学校に通っています。

稲 村 利便性もあるのですか。

徳 田 駅周辺の学校でも、それほど私立受験者が多くない地域もあります。

森 山 尼崎の中学校の良いイメージが市内外に伝わっていないこともあるようです。

稲 村 中学校に行くと、雰囲気がガラッと変わります。規則が増えて、厳しくなります。

濱 田 子どもで入って、大人で出る3年間と言います。

仲 島 中学校に入ると、集団行動というものが増えます。しかし、体育の時間に集団行動ばかりするのは、どうだろうという感があります。他にすることもあってはと思います。

徳 田 成長過程からいくと、中学3年生というのは、男の子・女の子から、男性・女性に変わる時期です。体は変わっても、心の部分との差が大きい。また、先輩・後輩という意識がとて強くなる時期です。小学生には、ほとんど上下の関係はありません。中学に入ると、急速に上下の関係ができてしまうことで、不登校にもつながっているように思います。人間関係についていけない、上下関係が強すぎる、ということ。尼崎市だけでなく、日本の中学校全体が強すぎるのかもしれない。変わっていく時代ではないでしょうか。小学校でグループ学習をし

ているのが、中学校では、一斉に前を向いて大学の講義のような授業をしている。中学校の先生も変化を感じていただきたいと思います。

西野 現在、中学校でもアクティブラーニングに取り組んでいる教員、グループ学習に取り組んでいる教員は増えています。

仲島 大庄北中学校の取組は、全国で宣伝しています。

能島 各学校を回っていますけれども、英語の授業の時に、会話は全て英語で行われている中学校もありました。現在の授業は、私達親の世代が経験したことのない授業が行われており、市民の皆さんにも是非見ていただきたいです。

稲村 動画を撮って、ホームページで紹介してはどうでしょうか。こんな授業が受けられるとか、体験できるという情報が、耳に入れば、公立中学校へ子どもを通わせようと思う保護者が増えそうです。中学受験は、保護者の意向が強いと思います。

能島 私立の中学校、高等学校は、プロモーションに相当力を入れていますが、公立の中学校、高等学校では、広報については、まだまだこれからという感じがします。積極的に伝えることができれば、公立学校のイメージも変わってくるかと思いません。

礪田 阪神地区の学区の受験の厳しさというのもあるのですが、市内の高等学校に、市内の中学生が入学できないくらい市外からの受験者が増えているようです。

稲村 尼崎の市立高等学校は、とても人気があるようです。

礪田 尼崎双星高等学校も非常に人気があります。

稲村 どうすれば、尼崎市の中学生が、尼崎市にある高等学校に入学できるのか。塾が関係しているのでしょうか。

森山 風土というか雰囲気というか、周囲のいろいろな要因があると思います。

濱田 人数よりもその子にあった学校にどれだけの子どもたちが行けるのかではないでしょうか。自己実現を優先するという意味では、尼崎市から、他市の高等学校に通い、活躍する子どもたちも増えています。

礪田 尼崎市が取り組んできたことに間違いはなかったと思います。スポーツ、体育を学びたい中学生は市立尼崎高等学校を、ものづくりを専門的に学びたい中学生は市立尼崎双星高等学校を目指します。可能性が広がっているのですが、他市からの受験生が多く、なかなか行けないというギャップが出てきています。小学生の段階で、このような情報を保護者にも伝えたいのですが、なかなか機会がありません。

森山 かつては、きちんとしていさえすれば、あちこちでPRしなくてもいいという感がありましたが、今は、シティープロモーションとあって、しっかりとPRし、もっと尼崎市の良さを市民の皆さんに知っていただかないといけません。それは、子育てやまちづくりにも言えることで、そうすることでもっと尼崎市に着目していただけるのではないかと考えています。

稲村 他に何かありませんか。

森山 先ほどのいじめの防止対策に関して、議会からも質問がありましたので、教育委員会事務局から報告願います。

西野 今現在、小学校1件、中学校1件の案件があります。教育委員会事務局では、いじめ防止基本方針に則って、また国の指針に基づいて対応を進めています。今後、事態の変化がありましたら、ご報告させていただきます。

森山 教育委員会事務局の方で先ほど話題に出ていたフローに基づき、着実に進めており、市長も私も適宜報告を受け、確認しております。

濱田 私たちも対応の迅速さ、保護者の気持ちに寄り添うなどの意見を伝えていますし、学校の対応についても報告を受けています。

森山 学校もきちんと対応していますし、教育委員会事務局もサポートに入っています。電話相談の対応等、教育委員会事務局だけではできないことについては、市

長部局でサポートをしなければならないこともあると考えています。

稲 村
森 山

他にありませんか。

子どもの育ち支援センターでは、学校と市長部局、福祉関係者、保健部と協力しながらサポートしていきたいと思っています。あまがさき・ひと咲きプラザ内にユース交流センター、青少年の居場所なども整備していきます。内容が固まり次第、この総合教育会議の中でご説明させていただきたいと思っています。

濱 田
稲 村

意見交換しながら進めてください。

ひと咲きプラザは、非常に画期的なことで、器としては相当良いものになると思います。様々な機能が一つのところに集積して、顔の見える関係で協力していかなければなりません。教育委員会事務局、市長部局がともに、今後も協力していきたいと思っています。

事務局

来年度は、8月頃に次年度の取組について、3月終わりに1年間の振り返りという2回の定例会議に加え、年度当初に市長部局、教育委員会事務局に照会をかけて、会議に必要な事項を抽出し、議題としたいと思っています。よろしくお願ひします。

以 上